

福岡

福祉活動専門員の

ま な こ

社協活動前進のために

No.35 1993年12月発行 福岡県専門員連絡会 まなこ編集委員会 印刷 コロニー印刷

特集

老人保健福祉 計画へ、さらなる アプローチを!!

市町村で策定された老人保健福祉計画の冊子を手にして、皆さんはどのような感想をお持ちでしょうか。関係団体や社協の意見がある程度盛り込まれ、そして何よりも、当事者や家族の実態や要求が反映され、「まずまずの成果だ」という印象をお持ちの方が、どれほどいらっしゃるでしょうか。

計画についての評価はどのうであれ、「在宅福祉サービスの受託運営を中心として、この計画が市町村社協の今後のありようを規定していく事態が、文字として見えてきた」と言えるのではな

いででしょうか。

概して、十分とは言えない期間、スタッフ、手続きによって策定されたこの計画に対し、中間年の見直しを一つと目処として、社協はいかなる取組みを組織し得るのでしょうか。

社協活動の起点である当事者の実態（声）と、市民運動的実践を紹介し、今後の取組みの参考に供したい。そんな思いを込めての特集です。

市町村老人保健福祉計画は、今やつと実施の段階へと駒を進めたばかりなので



デイサービスセンターは、「虚弱老人」を主に対象にしたB型がほとんどで、数もまだ少ない。時間も短く回数・曜日も制限があり、ほけや、障害が重いとことわられることが多い。介護者が仕事を

なぜ宅老所をやりはじめたか

デザイナーサービスセンターや
特養で働いてみて、確かに

よりましな状況になってきてはいるが、「安心して老いることができる」と言うには、あまりにもほど遠いというのが現場の実感であった。

どうせ行くなら、
みんなが喜べる施設を!!

宅老所「よりあい」代表 下村恵美子

続けながら利用するには、あまりに不十分な内容であり、無職の介護者がいることが前提の内容といえる。

特養老人ホームは、定員が50人以上と決められている為大きな土地を必要とし、住み慣れた町から遠くはなれた、家族も友人も通いづらい交通の便の悪い所に建てられているところが多い。

赤の他人と24時間、大集団で生活する苦痛。さらに生活を支える職員数のあまりの少なさ。あげくのはては「問題行動」「問題老人」と言われ、閉じこめられたり、縛られたり。(そうでないところもあることを承知であえて……)

ほけや障害のある方達が見知らぬ人達ばかりの大集団の中に突然ほけこまれ、環境のあまりの違いにパニックにならない方がおかしい。普通でない世界からにげだしたくなるのは、ごく当然の事である。

「ほけても、障害が重くても、人間らしく普通に暮

らし続けられないものだろうか……」

「住み慣れた町で顔なじみの人達や風景・思い出の物にかこまれて暮らし続けたい。」

こうしたささやかで、当たり前な願いを少しずつでも形にしていきたいと、宅老所をやりはじめた。

出雲市ことぶき園(小規模多機能型老人ホーム)をお手本に

七年前に全国で初めての宅老所としてスタート。

10人ぐらいが泊れて、7、8人が通える小さな介護ホームである。やっと昨年通所事業がデイサービスE型で単独認可され、運営も安定したようである。

市民会館のすぐ近くで、便利のいい住宅街にある、ちよつと大きめの一軒家なことぶき園である。そこには、ゆるやかな時間が流れ、その人らしい普通の暮らしがあった。施設に利用者や家族があわせるのではなく、

利用者や家族の都合に施設があわせる。本来の施設のあり方がつらぬかれてい

なかく、規則や時間の管理も必要でなく、お年寄りの个性的でいきいきした表情が印象的だった。

小規模だと、大きな土地、建物にお金をかけずにすみ、町の中の便利な場所でやれる。障害者の共同作業所づくりも、アパートや小さなプレハブから始まっている。

そして何より「大集団の安定」につきものの、規則や日課は不要であり、一人一人の個性や生活の過ごし方を大事にできることが最大の魅力である。

「よりあい」で大事にしていること

託ではなく宅を使っているのは、人生の大先輩のお年寄りに対して「託する」は失礼なことだと思ってい

ることと、人里はなれたところではなく、生活の臭いにかこまれた町の住宅のなか

にお年寄りが、安心してよ

りあえるところ、という意味をこめている。

日課は特に決めず、その日の顔ぶれ、体調、気分、天候、希望にあわせて、昔話をしたり、昼寝、入浴、歌、おどり、散歩、買物、ドライブなどゆつくり、のんびりをモットーに、居こ

ちが良くて笑ってすごせる「よりあい」を大切にしている。

又、コンクリートの病院のような建物ではなく、木と白壁の古い民家を利用している。利用者の方の嫁入

道具だった古いたんす、障子、たたみの椅子、檜の風呂等、昔なつかしい雰囲気にお年寄りもスタッフ、ボランティアさんも落ちついてすごすことができている。

「よりあい」の利用状況

現在の利用登録者は42名、59歳〜97歳と年齢の幅があり、平均年齢82・8歳。

9割以上の方にほけの症状があり、心臓病、パーキンソン、糖尿病など様々な病

気をかかえてある。一日多い時で16〜17名、少ない時で10名の利用となっており、一ヶ月延利用者の平均は、

デイサービスが20名、宿泊利用が10名となっている。送迎を3名のスタッフで

手わけし、9:30〜10:00頃到着し、帰りは夕方5時に出発している。利用日を

決めている人もいるが、その日の朝8時までに連絡してもらおうようにして、家族、

利用者の都合にあわせて利用してもらっている。

介護者の突然の病気、仕事の残業、出張などの時特養のショートが一杯でこと

わられて困っている等の相談から、宿泊も可能な限り、少ないスタッフ体制のなか

で受け入れている。多い時で4〜5名の住人になることもあり、なりゆきで共同ホーム、グループホームになっ

最大の悩みは運営資金

こうした宅老所事業（小規模介護ホーム事業）は、まだ行政の認可事業になつておらず、やつと実績が認められ、補助金が少しずつ出され始めた所もある。

やむをえず、運営を利用者に頼らざるをえないが、本人や家族の負担にも限度がある。

デイサービス3千円（昼食・入浴送迎込み、経済状態に応じて減額有）、宿泊2千円（夕方5時～朝まで）利用料を頂いているが、食費・家賃・水道光熱費・ガスリン代などで大半は消え、本来、人件費等を入れると経費は三倍以上はかかる。

その為、スタッフの給料は、ほとんどバザーや物品販売でつくり、やつと8万～10万円にしかならない。もちろん、ボーナス、社会保険もない。ほけや障害をもったお年

寄りが安心して利用できるために、専任の職員体制が不可欠なのはいうまでもない。安定したプロのスタッフを確保できて始めて、命を相手にした仕事の最低の責任がとれるのだと思う。

本来、ボランティアだけで対応できる事業ではない。ボランティア精神だけで、

とても長続きするような内容でもない。専任のスタッフがきちんとして、はじめボランティアさんも安心してかかわれるのだ。何でもかんでもボランティアで、地域社会でという方向には大きな疑問を感じている。

一日もはやく、公的デイサービス事業の1千万～2千万円台にみあう、補助金制度を確立してほしい。実績を踏まえ、単独デイサービス事業として位置づけ支援してほしい。

たとえほけても障害が重くても、いつでも必要な時に、気軽に利用できる泊れて通えるミニ介護ホーム・宅老所があちこちにあったら。年をとることが、ほけることが、これほど嫌がられなくなるのではないだろうか。

自分達の生活の場から、地域からお年寄りを、ハンディのある人々を、限られた場所へ追い出さない老人保健福祉計画であってほしい。

どうせ、貴重な税金をかけてつくるのなら、大きな健物がりっぱな施設ではなく、家族的な公民館や学校などの近所にこじんまりした宅老所・ミニホームを！！

結成された当時から家族の会活動の主な目標は二つで、その一つが、家族同志が励まし合い助け合うこと。家族同志が交流することで、介護への勇気を出し続けていくことです。

二つ目は、呆けの問題を社会化するということです。呆けへの知識と理解がまだの現在、社会的に関心を高めて、援助を充実してもらおうということです。

この二つ目の目標にかかわる活動の一環として、市町村老人保健福祉計画への取組みを行いました。

全国の市町村へ！要望書を出す

平成五年度は、全国の市町村で老人保健福祉計画が作られています。呆け老人

痴呆性老人は、すべて

「要介護老人」としててください」

呆け老人をかかえる家族の会福岡支部世話人代表 片岡ツル子

をかかえる家族の会（全国組織）としては、三三三六の全市町村に、福岡支部では、福岡県をはじめとして九七市町村へ、老人保健福祉計画策定にあたっての要望書を郵送しました（一部の市町村へは、世話人が出向いて手渡ししました）。

この計画をつくるについで厚生省が示しているマニュアルでは、施設の数、ホームヘルパーの数等を割り出す根拠となる「要介護老人」の中には、呆け老人は一五%しか入らないのです。寝たきり老人は一〇〇%なのです。

呆け老人への知識と理解が深まりつつあると思っっている私達にとって、厚生省がこのような数字の割り出し方を示したことは落胆しましたし、意外な思いで



もありました。

要望書の主な項目

□痴呆性老人は、すべて「要介護老人」としてください。

□施設整備計画全体に、痴呆性老人に対する配慮を行ってください。

□関係者に対し、痴呆性老人への理解を深めるための研修を行ってください。

□計画作成にあたっては、呆け老人の家族を検討委員会等の委員に任命するなど、介護家族を参加させるようにしてください。

福岡市の策定委員に

福岡市の計画策定委員三名、当事者団体二団体。この中に家族の会が選ばれました。設立数年の頃のことを思うと、感慨無量です。発言する場は得られまし

たものの、財政・人的資源等の制約があり、どの程度実現できるかは分かりません。しかし、このような委員会、どのような経過で内容が定まっていくなのか、その点は勉強になりました。

十月二〇日、第四回目の委員会があり、年内にもう一度開催されるそうです。

福岡県との話し合い

八月一二日付で、福岡県民生部老人福祉課・保健環境部健康増進課より、老人保健福祉計画策定に関わる意見を聞きたい旨の連絡がありました。

八月二五日、県側から鈴木健康増進課長、泉福祉計画係長他四名、家族の会から五名が出席し、次のような私達の意見をもとに話し合いを行いました。

□老人保健福祉計画及びその実施にあたっては、

県下市町村間の格差を少なくするように努められたい。

□呆けに対する知識、理解が低いので、普及啓発に格段の努力を望む。

□福岡市で行っている保健所を窓口とした相談体制の一本化といった保健・医療・福祉のネットワークづくりに努められたい。

□県下五七市町村で支給（一二市町村で検討中）されている介護手当金を、すべての市町村で実施を。

□特別養護老人ホーム未設置の二〇市町村の解消に行政指導を。なお、デイサービス時間の延長（有職婦人も仕事が続けられるように）と利用日数の増加、今後の課題として、家族が病気の時などのためのミドルステイの実施検討を。

□初老期の痴呆性患者及

び家族に対する特別の配慮を（患者の年齢が若いための経済的困難と先行の長いことなど、家族の肉体的・精神的疲労を考え、社会資源が利用できるようにしてほしい）。

□ホームヘルパー数の確保と身分の保障を。

県は政令市の福岡市とは違い実施主体ではないので、確たる回答はありませんでした。しかし、県との話し合いを通して、介護手当金がかかりの市町村で支給されていること、特別養護老人ホームの設置が地域的に偏っていること、老人保健施設の開設が急速に進んでいることなどを知り、勉強になりました。

以上が、老人保健福祉計画策定へ向けての家族の会ならびに福岡支部の取組みの概要です。なお、今まで述べてきた要望事項の外に、福岡市へ

提出した要望書には、(1)デ

イサービスの充実に関連して、箇所数の増、利用対象の拡大（若年性痴呆者等）、E型の増設を、(2)福祉サービスク社に関連して、利用対象の拡大（若年痴呆者等）、呆け老人のいる家庭の審査にあたっての慎重な対応を、(3)保健婦の増員、(4)社会資源の広報についての工夫を（社会資源を知らない住民が多数おられる）という項目を追加しています。老人保健福祉計画と呆けの問題をぜひ再考いただき、市町村行政へ私達の声を届ける手助けを社会福祉協議会の皆さん方をお願いしたいのです。



〈新連載〉社協サポーターに拍手喝采

市町村社協の理事や評議員といった立場で、社協事務局を支え日夜奮闘いただいている方々に登場願ひ、思いの丈を語ってもらうという新企画です。

第一回目は、「福祉教育」のオピニオンリーダー、熱血漢、古谷信一先生です。

地域で学ばせようのぞ、 そんな簡単なことじゃありません

行橋市社会福祉協議会評議員 古谷信一

Q 現在、行橋市社協の評議員をされていますが、「福祉」関係にかかわり始めたいきさつを教えてくださいませんか。

A そうですね、教師をさせていただいて、いろんな人たちに会えることがございました。人との出会いというのは、ものすごく大事ですね。特に行橋市社協の緒方さんという専門員の方がいらつしやいましたけど、その方との出会いというのが非常に私の人生観を変えましたね。市社協の職員のみなさんや県社協も結びつけてくれたんですね。そこできざまな生き方、いろんな努力をされている人たちと出会ったわけです。そこで福祉教育、まあ、福祉にのめり込んでいったんで

しょうね。

Q 小学校の教師を39年間やって今年三月、定年を迎えるまで、一貫して学級担任をされ、現場にこだわり続けてこられましたか、今の学校教育や、教師のあり方についてどうお感じですか。

A 学校というのは今、病んでいます。子供や教師が自殺したり、非行、いじめの問題もございます。先日もどこかの中学校の校長先生が自殺したという話を聞きますが、命がそこなわれている。教育の中でですね。これは大変なことですよ。福祉、ボランティアというところをさかんに最近では文部省も言うようになってきました。私たちはもう20年ぐらいも前から、社協の方々に出会

った時から助け合いの心や思いやりが大事だと言ってまいりました。

人間の生き方は、さまざまある。だから、自分が幸せになることがまず第一、自分が幸せになれば人にもその幸せを分けてあげましょう、という気持ちで、そのためには、人と手をたずさえて力を合わせていかなと解決できない、と。

それから、地域に残って頑張るような人材をたくさん創らなければいけないんじゃないか、育てなければいけないんじゃないかなあ、と、途中からそのことに気がついてきました。それに、やはり教師というのは私も含めてですけど、非常に自分本位ですね。若いときから「先生、先生」と言われますからね。そういう自分本位ということに気がつきはじめましたし、地域の人たちに教えられることもずい分多くなりました。そのことに気がついただけ私は

幸せだったと思います。

今、非常に気になるのが、学校の先生のやり方ね。みんな誰かがやったら自分もやる、という、自分から、自らというものが少なくなってきたんですよ。これは学校だけじゃないかも分かりませんね。人がやるからやるんじゃない。自分がやりたいからやるんです。やらせられるからやるのではない。やりたいきややりなさい。進学の問題でもそうでしょう。自分はある高校に行きたいから勉強するんだ、と。それで結果的に不合格になつたつていいじゃないですか、また挑戦すれば。人生考えてみれば八十年、百年という時代が来て、ちよつとぐうらいのことで、つまづいてあきらめることはないはずですよ。

空缶の問題にしてもそうでしょう。先生の中には、遠足とか行くときに散らかしては困るということ、全員全部の持ち物に名前を書かせる人がいるんですよ。そんな学校実際あるんです

よ。自分が捨てなければ散らからないはずでしょう。ボランティア、福祉ということは特別なことやない、と、この仕事に関わり始めたときから言い続けてきたんですよ。ところが、最初に、「こうあるべきだ」と、というのがないと進まないのが今の学校の教育です。

例えば、差別をなくす、人権を大事にするというところで、特別なことをするんじゃない、お互い同志、人間が人間を認めあうというところから発想すればそんなに難しいことじゃないと思う。だから、ここに人権教育があつて、ここに福祉ボランティア教育があるとか、そういうことじゃないと思う。みんな同じものじゃないでしょうか。人間がどう共に生きるか、それが到達するところで、やっぱりみんな幸せを求め、幸せに橋を架けて生きていく、その姿をお互いが認めあう。だから、考え方の違いがあつてもそれを認めあうとい

うことですね。それぞれがお互いを尊重しあうというか、そのことが基本にあれば福祉教育とは、ボランティアとは「こうあるべきだ」とか、指し示す必要はないと思います。

社協の優れた面とは地域の多くの方々が集まつてくることがいろいろな生き方を職員が学び、この職員の方たちが多くの人たちにまた財産を与えること。

例えば、ワークキャンプですが、もうどんどん学校の先生も参加すべきだと思います。ワークキャンプだから、割り当てて連れて行くもんじゃありません。一応募集はしますが自主参加です。未成年の子供達も、高校生、大学生も含めて小学校4年生以上になつてますが、ときには小学校1年2年の子供も参加させてくれと来るときもあるけど。ワークキャンプに2、3日行つてごらん下さい。本当、子供達の考え方が変わります。教育とは人間をい

い方向に育てていくことですが、ワークキャンプは優れた教育方法じゃないでしょうか。私も「みやこの苑」に一晩泊めていただいたことがありました。学ぶことがたくさんありました。学校の中だけではなかなか知ること、学ぶことができないんです。教育の中では盛んに地域と結んだとか地域に根ざしたといいます。その骨頂だと思っています。

口先だけじゃないか、と。地域に学ぶというのはそう簡単なことじゃない。自分から進んでいくことじゃないか。だからわたしは、自立する一人立ちするとは、どういう意味を持つのかというのを、絶えず教育の中でも、教育現場の中でも考えてきました。退職してからいつそう、それが深く広がっていくんじゃないかと思うんです。

子供達もそうなつてないかと。ある程度の枠の中で仕事をしておけば、だれからも言われぬ。お互いにやつかみ半分でもない。そういう感じです。



Q 評議員になられての抱負は。

A 退職する前に、評議員の話がございました。私はまもなく退職するから役員というのはいないんじゃないんですか、と申しましたら、「学識経験者の一人としてなつていただくんだから、退職しても関係ありません。」という、有り難いお言葉をいただきました。以前から社会福祉協力校の交流

会とかで、話をさせていたでいてました。ずっと交流は長いんですが、おかしいですね。自覚というか、自分が社協の役員として小さな力でも、地域を動かすという役に立てる立場になつたんじゃないかな、という実感がございます。

Q 評議員になられてどういうことをされているのですか。

A ご存知のとおり私は元教師ですから、学校教育、福祉教育に力をかけております。行橋市全部が社会福祉協力校になりましたし、自然体で福祉、ボランティア、心の問題を考える、もう一度原点に帰って教育とは何かということ、私は評議員になつてから考えるようになりまして。そこで、例えば、赤い羽根共同募金のキャッチフレーズとか、パッチ図案とかを考え、専門員の福谷さんと一緒に各学校17校くまなくまわりまし

た。それから、5年生の「ともに生きる」という本も、配布のとき福谷さんといっしょについて市内の小学校全部まわりました。しげしげと通い、しげしげとお願いしてまわると、非常に波纹を呼ぶんですね。本当に不思議な話ですが赤い羽根共同募金のキャッチフレーズが、昨年、今年と最優秀賞。これはもう本当びっくりするような状況で、だからこれが教育のすべてではない、ひとコマだと思いたすが、非常にうれしいですね。私自身やりがいがあるな、ということ。学校はどちらかというと閉鎖的な面を持っています。特に公立の学校はそうです。しかし、こういうことを通しながら、開かれた学校といいますが、そのような学校を目指すということですね。子供達に、自分たちが何かをやりたいと言うことを自覚させていくということ、そういうきっかけになればなあと考えています。それ

から、いろんなところからボランティアや福祉教育の講演に来てください、との有り難いお話があります。



Q 現在、評議員とは別に地域で何か福祉的な活動をされていますか。

A ええ。「区長をやらんか」という地域の人の要望があります。若いときにやらせていたかどうか、今までお世話になった分少しでもお返しできればと思います。私が区長になって、非常に喜ん

でもらえたのはやはり地域に福祉を作るという視点ですね。それから、21世紀の主人公、中心的存在である子供達、まちをつくってこられたお年寄りの方ですね。そういう人生の大先輩の方、その方々を「軸」に大事にしていくということ。仕事をさせていたかどうか、と。区長になったからといっても一人では何もできませんので、まず、区の状態、お年寄りも含めて、どういう方々がどこに住んでいるのか知ることから始める。これは、隣組長に調べてもらったり、私が歩いてまわって、ここまでするの区域だなど、今までは知らないでいたわけです。それと、高齢者を大事にすること。今65歳以上の方が何人いるのか、これも調査してもらいました。それから、寝たきりの方、入院している人が何人いるのか。一人暮らしの方々が、いざ何事があったときどんなネットワークになっているのかつかむ

ことですね。それと、子供達がどんな状況に置かれているか、このようなことを子供会や婦人会、老人会、いろんな方々に教えていただいています。

学校時代、学級通信、学年通信を毎日出してました。今は、「東区だより」というのを月二回、市報に合わせ出しています。サブタイトルは「地域づくりネットワーク」ということで、区長の主な行動日誌とか、区に赤ちゃんが生まれたとか、病院から退院されておめでとうございますとか、新しい家が二軒建ちましたというのを載せながら、みんな一人一人が地域の主人公なんだ平等なんだ、と訴えるような紙面ですね。それと地域福祉ということの意味。地域福祉とはいったい何だということができるだけ載せるようにしています。

A 他地域から移住してこられる方もいますし、駅もスーパーも新しくなったり、地域もさまがわりしていくと思うんです。そういうのを敏感にとらえ共存共栄というか。例えばアパートに住んでいる人達、転勤の多い方が結構いるんですが、その人達が一ヶ月でも半年でもここに住んで、去っていくときに一つでもいい思いをした、と思えるようなまちづくり。それと骨を埋める人達には、この地域で死にたいなと思えるようなまちづくりをしたいですね。地域に病院があるわけですから、病院と我々とのネットワークが何かあるんじゃないか、病院という医療機関と地域の問題ということも考えていきたいですね。夢はますますふくらんで、やればやるほどやりがいがあるというところ、いいけど、自分も年をとっていつていうと実感と同時に、みんなも年をとって良かったなあ、長生きして

良かったなあ、そう思っ
てもらえるまちづくりですね。
だから、特別何かするとい
うものではなく、福祉、ポ
ランティアと同じですが、
少し何か工夫するというこ
とですね。

例えば、区にあるいちぢ
く畑の中でシートを敷いて
まちの寄り合いをするとか。
(区の)役員さん達だけが
中心でやっているんじゃない
くて、自分もここに住んで
いるものの一人として、と
いうような感じを私はこれ
から考えていきたい。だか
ら、社協の評議員になった
ということが、私たちの区
に即役立つんじゃないでし
ょうか、だから「ふれあい
のまちづくり」ですよ。「大
風呂敷」かも分かりません
が、まあ、そんな感じでき
ますよ。

「インタビュアー」
築城町社協 佐々木真一

フリートーク



その日、私は…
筑穂町社協
入江美千代

早めにこの原稿を仕上げ
ようと家を持って帰って来
たところが、仕事の残業が
重なり、11月3日夜の11時
に思い出し、こうして書い
ているところです。

何を書こうか悩んでるん
ですけど、まあ祖父の「あ
る日」を紹介でもしてみま
しょう。

うちの家族は5人です。
祖父は寝たきり老人ランク
Cの名簿にのっている1人
です。85歳です。私が幼稚
園に通ってるころにも膜
下出血で倒れ、寝たきりに
なって10年位です。趣味は
テレビのリモコンでチャン
ネルをかえることです。そ
れに夜型人間なもので、さ
みしい時はせきばらいで人
を起こし、「何か呼んだ？」

と聞くと「……」、首を左右
にふっています。最近カゼ
をひいたせい、ちよつと
痴呆ぎみな感じがします。
実は、このカゼ私がうつし
てしまったのです。(じーち
やんごめんネエー。)

10月16日(出)コスモスコモ
ンで高森氏の講演会のある
日のことです。

そろそろ家を出ようと準
備している時、母が祖父の
便の方を手伝っていました。
祖父が、

「ウォー——イ!!」

と、大声で呼んでいたにも
かわらず、私は横で準備
をしていて、「あと5分が出
かけんと遅れる」といいな
がら祖父の着脱の手伝いを
終わり、さあ行こうと思っ
たその時でした。祖父が、

「フガフガガ……ガフ!!」

な、な、なんと、あごが
外れているではありません
か! 私は、いつものことだ
ろうと思って

「じーちゃん何しよん、
まだ出そうなん?」

「何かむにやむにやいい

よるんばい」と母と話して
たら、とんでもない本当に
外れていて急いで主治医に
連絡をとって来てもらった
ものの……

「オレは、はめたことな
いばい。」
の一事とでした。

しかし、こつちも早くど
うにかしてもらいたいし、
心の中で

「あんた医者やろ。」

とほやきながら、何とか先
生を納得させ、やってもら
って10分後位に

「カパッ!」

とはまりました。その時う
ちの母は、先生に後光がさ
して思わずおがんでしまっ
たと言っていました。と、
こんなふうにとんでもない
ことがおこったりするので
す。

それから無事私は、高森
和子氏の話を聞きに行った
のですが、話の中にある女
優さんの悪口を言った時(そ
の人がどんな性格にしろ)、
どんなにすばらしい内容の
話だったにしろ全てがだい

なしのように思えたのは、私だけでしようか。

そして、夜は、手話の中级講習に遅れ、ろうあ者にしかられ、どつぷりと手話につけこまれていきます。

夜の睡眠はぐっすりとれてるんですけど、「夢」がいまいちいいのが見れなくてさんねんです。

お弁当、配達してよ

城島町社協
高三瀧 泉

何でもいいから書いて！と言われても、それが一番困るんですけど……。私の一日と言っても、雑用雑用で終る毎日です。あれもしなければ、これもしなければと思っても、すぐ目の前の仕事をかたづけしていくだけで（それさえもこなせなかつたりして……）精一杯の毎日です。このごろやっと臨時さんを雇ってもらって

も、これから年末に向って仕事は増える一方（たまる一方!?）です。とりとめもなく何を書こうかまだ悩んでいます。ということでご近ごろはじめたボランティアによる給食サービスのことでも紹介します。

10月から、我社協では月一回のボランティアによる給食サービスを始めました。

（従来の給食サービスは、週一回、料理は業者、配食は民生委員。現在第一週だけ料理も配食もボランティア、後は従来どおり。）「社協だより」で「給食サービスのボランティア」ということで募集し、集まった「おばちゃん」たちです。ただどそのパワーと心がけには頭がさがります。「こんなこととはつゆ知らず」「はじめてみればいろいろややこしいことがたくさんあって」「はじめたからには続けたい」「なかなか楽しい」「いろいろ知り合いができた」等々いろいろな「思い」を胸に、文句も言わず（!?）

がんばってます。料理の腕は言うまでもなく、手際も良く、「すごい」と見とれてばかりで、あつちにウロウロ、こつちにウロウロしているのは私ばかりです。自宅の畑でとれた野菜を持ちよって、「お金がない！ お金がない！」と頭をかかえている事務局を助けてもらってます。高菜づけをほめられれば皆にふるまい、梅干がうまかつかつたからと言ってはお弁当に色どりを添えています。

「将来子供たちが誰もおらんことになって、主人と二人体をあんまり自由がきかんとことなったら、家にもお弁当配達してよ」と捨てぜりふを残して、おばちゃんたちはお弁当を持ってお年寄りの自宅へとむかいます。

時給がもらえるわけでもなく、ほとんど知る人もいないことを、誰にほめられるでもないのに、結構楽しんでながらやっています。



福祉童話第4章 「お酒と福祉のお話し」

篠栗町社協
飯島 勝吉

「ただいま」ガラガラと玄関の戸を勢いよく開ける。目指すはキッチンただ一筋。戸棚から一回り大きいグラスを取り出す。冷蔵庫から取り出した個体を三個入れる。琥珀色の液体を今にもこぼれそうになるまで並々と注ぐ。

液体 「私の素晴らしさを早く味わって下さい」

勝君 「よしよし」というが早いか、一息に飲み干してしまった。

液体 「旦那様、そんなに一気に飲み干しては駄目ですよ。もっとゆっくり味わってくださいヨ。もう一度ボトルの仲間をこのグラスに呼んでくださいヨ」。

勝君 「この一瞬を楽しみにしているのに、貴女にはこの気持ちが解らないのかなア」とひとりごとを言いながら、液体をグラスにトクトクと注いだ。右手にグラスを持って居間に入る。野良仕事着に着替える。手から離れたグラスが恨めしそうな顔をして、テーブルの上から話しかけてくる。

右手にグラス、左手にラジオと煙草を持っていつものパターンで裏の畑に行く。輪切りにした木に腰かけ畑を眺めていると、太陽に照らされたトマトが真っ赤に熟れている。その横でキュウリが直立不動で下がっている。

トマト 「今が一番美味しいですよ。早く奥さんに私の姿を見せてあげてください」と話しかけてくる。よしよしと合づちを打っていると、大根が私にも話しかけ

てくださいますよと、恨めしそうにじつとこつちを見ている。

勝君 「どうしたんだネ大根さん。」

大根 「私はトマトさんやキュウリさんのように自信たっぷりな態度が恨めしいですよ。虫さんが沢山遊びに来て、ごらんのとおり葉っぱは穴だらけですよ」と今にも泣き出しそうな顔で、ボソボソと言っている。

勝君 「大根さん、そんなに悲しまないでヨ、トマトさんもキュウリさんも数が少ないでしょ、それはネ、消毒もしないし化学肥料も使わないから仲間が余りないんだヨ。」

大根 「だって、トマトさんもキュウリさんも美味しい美味しいと、みんなが言ってるんだもん。」

勝君 「そうだヨ、畑が痩せているからトマトさ

んが美味しいんだヨ。でねエ、沢山実をつけさせてあげたいんだけどどうにもならないんだヨ。」

手を伸ばしてトマトを手の平に乗せると、トマト 「ああよかった。今日は何処に嫁入りするんですか。」

勝君 「今日はひとり暮らしのおじいちゃんの所だヨ。今まで君達の仲間が一度も行ったことのない家だヨ。少し頑固なおじいちゃんだけど、私の顔を見る度に野菜を食べなさい。野菜は身体にいいんだヨ、と言う位野菜が好きなおじいちゃんだ。でも少し心配だナ。」

トマト 「そうですか、でも心配はいりませんヨ。こんなに真っ赤に熟れているから、絶対に美味しい美味しいと言って食べてもらえるヨ。」

勝君 「ありがとう、君とキュウリさんと大根さんと一緒に嫁入りするかな。」

キュウリ 「私は嫌だネ。おじいちゃんは包丁を磨いているのかな。錆びた包丁は痛いんだヨ、良く切れる包丁でサクサクと切ってくれと、身体が締まるんだけど、錆びた包丁だとグチャグチャになって美味しくないと言われるヨ。」

勝君 「もう少し待ってくれないかな。大根さんと話をしているんだ。」

勝君 「大丈夫だと思うヨ。頑固で野菜が好きなおじいちゃんだから、包丁はいつも研いでピカピカにしていると思うがネ。」

勝君 「ああよかった、勝君ありがとう。」

大根 「僕は虫に食われていて、それに身も痩せているから嫌われるヨ。」

勝君 「スリ大根にすればピリツとして辛いから朝御飯が沢山いけるんじゃないかな。そうなたら、おじいちゃんがブクブク肥えて大根さん助けてと言うかもしれないヨ。そうなたらどうする。」

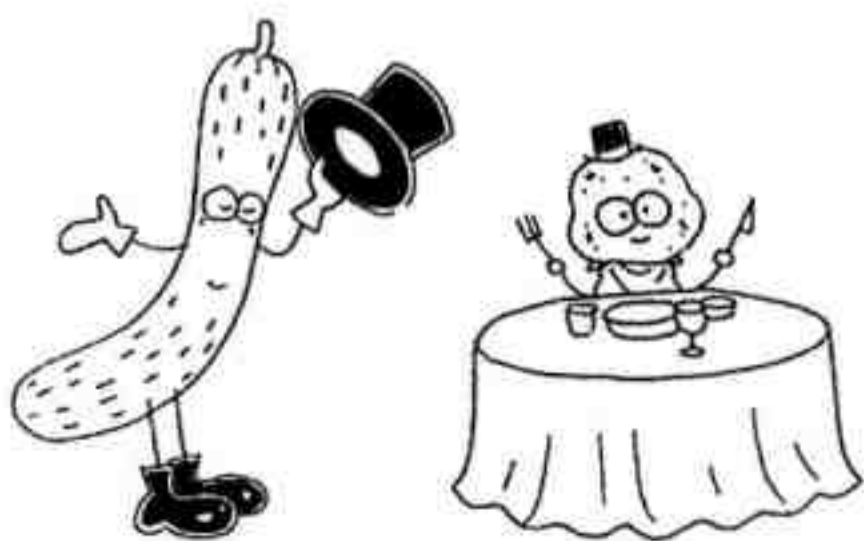
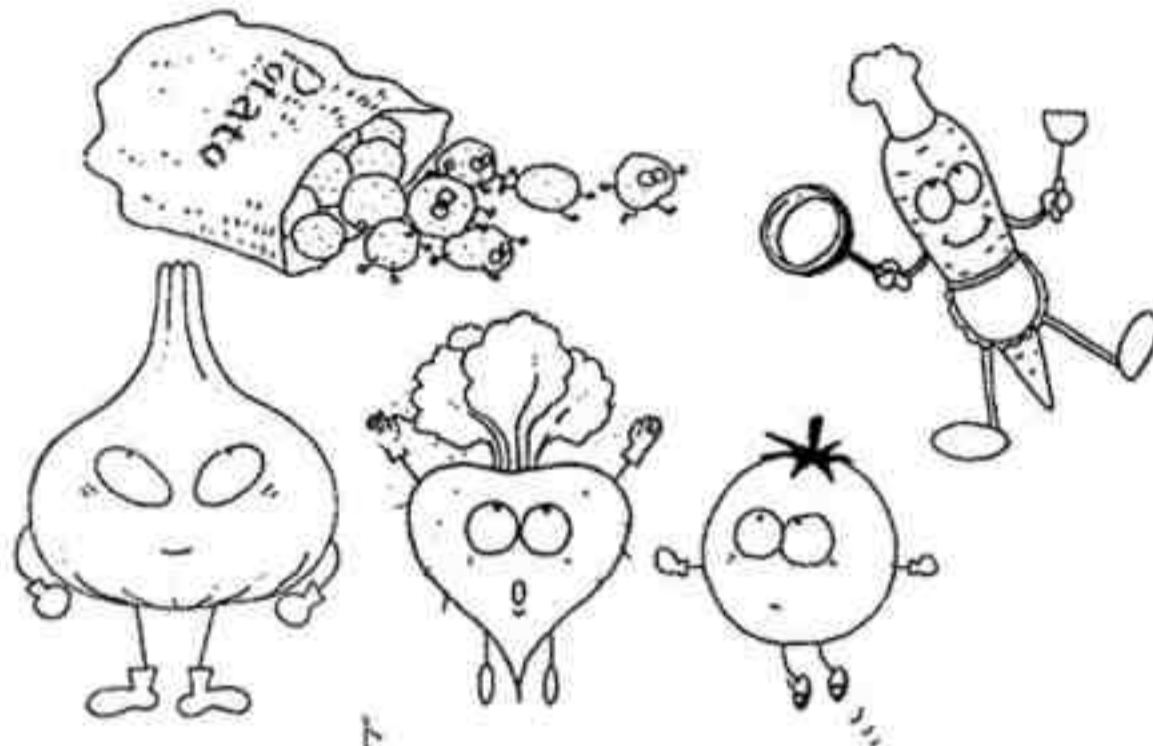
液体 「私はどうなってるんですか。いつまでも

このままだと暖かくなってしまうヨ。早く草取りでもして一汗かいて下さいヨ。そうでもないかとグラスからこぼれてしまいますヨ。」

勝君 「ああ、草取りに行くヨ。」

雑草 「皆さん楽しそうでしたネ。おじいちゃんに喜ばれるのでよかネ。私は邪魔物ですしネ。役にも立たない、情けないですよ。」

この続きは第5章でお話ししましょう。



これからは、おもしろ
企画づくりに

浮羽町社協
松岡 次弘

我が町社協は、今年度から二年間、ボランティア事業の指定を受け、いろいろな企画をし事業を進めているところですが、その中の一つのレクリエーションスクールを紹介します。

このスクールは、地域の子供会や職場、各団体が主催する集いにレクリエーションを取り入れる機会が多くなってきたが、その指導をしてくれる人材が田舎街なので少なく、今回の講習会を通して、ゲームや遊びの基礎知識や技術を学び、個々の立場でそれを生かしていただくと同時に今後、町にレクリエーションの輪が広がるようレクボランティアとしての活躍を期待するということを目的に、毎

週金曜日の夜八時から六回実施するものです。

第一回目が十月二十二日に六十九名の参加者で実施されましたが、最初どういった内容になるのかなあと思っていました。予想をはるかに越えるおもしろさで、皆んな満足して帰られました。

その中身については、ここで書ききれませんが、おもしろさの中に体力を要するゲームやダンス等でありましたが、内容もさることながら二時間の内に、男女が手を取り合ったり、ひつつきあったりする時間が多く、社協の仕事としては、実においしい仕事になっていくかもしれません。

それは、参加者の大半が女性であり、しかも若い方が多いからです。(何歳までを若いというのか、わからないが)ちなみに私は、三十一です。

私は、結婚して七年になります。子供(小学一年保育所はと組)二人とは、

よく手をつないで遊んだりしています。女房と最後に手をつないだのは、いつのことか記憶にない位です。

これから、あと五回ありますが(まなこが発行された時は、終わっています。)花の金曜日、酒を飲みに行くのを止めて、このスクールに仕事ということを忘れて、通いたいと思っています。

これからは、こういったおもしろい企画に力を入れていこうと心に決めました。

コ・ワ・イ・ヒ・ト

福岡県社協
藤田 博久

朝七時になると、わが家の家宝アニメ目覚し時計が、「ワンとチューとニャンとな！ホレ！ワンとチューとニャンとな！残念ですけど朝ですよ！」と、愛くるしい声で、耳元で囁きます。

くちなみに、この時計は、

天神コアに息子と一緒に選びに行き、「ウルトラマンのほうがいい」という「ニードを私が強引に潜在化させること」によって入手した逸品です。

「悠希ちゃん、オキリー」と、毅然とした態度で朝のお務めに勤しむ私です。今朝も、「今日着ていく服と靴下と手袋を、コタツで温めておくように。」という業務命令を受けました。

一昔前、筑紫野市立二日市東小学校二年一組で流行っていた替え歌を紹介します。「ささえさん」のメロディーで口ずさんでみてください。ハイノドロー

月戦争しようといラクへ出かけたなら
戦車を忘れて、三輪車で突撃
あつちは大砲だ、こつち
ちは水鉄砲
ルルルル・ルルルル・
人生最後の日
玄関先までお見送りにこ

「今日は何時までですか」と職場の後輩に声をかけられ、「定時くさ」と元気に答える私です。最近は一歩前進して、「今日も定時ですか」と、なぜか行動パターンをすっかり読まれてしまっているのです。

家に帰ると、ほとんど今日は終わっています。テレビをつけ、「出目金親父」の姿が画面に映し出されると、思わずハエタキで叩いてしまうのは、私だけの悲しい習性なのでしょうか。

市町村社協の皆さんのガンバリに感心しつつ、いつも「マカセナサイイ！」と思わず口を滑べらせてしまった事後処理に、青ざめつつ喜んでいる。

それが、私の真実の姿なのです。

コ・ワ・イ・ヒ・ト

天神コアに息子と一緒に選びに行き、「ウルトラマンのほうがいい」という「ニードを私が強引に潜在化させること」によって入手した逸品です。

「悠希ちゃん、オキリー」と、毅然とした態度で朝のお務めに勤しむ私です。今朝も、「今日着ていく服と靴下と手袋を、コタツで温めておくように。」という業務命令を受けました。

一昔前、筑紫野市立二日市東小学校二年一組で流行っていた替え歌を紹介します。「ささえさん」のメロディーで口ずさんでみてください。ハイノドロー

月戦争しようといラクへ出かけたなら
戦車を忘れて、三輪車で突撃
あつちは大砲だ、こつち
ちは水鉄砲
ルルルル・ルルルル・
人生最後の日
玄関先までお見送りにこ

「今日は何時までですか」と職場の後輩に声をかけられ、「定時くさ」と元気に答える私です。最近は一歩前進して、「今日も定時ですか」と、なぜか行動パターンをすっかり読まれてしまっているのです。

家に帰ると、ほとんど今日は終わっています。テレビをつけ、「出目金親父」の姿が画面に映し出されると、思わずハエタキで叩いてしまうのは、私だけの悲しい習性なのでしょうか。

市町村社協の皆さんのガンバリに感心しつつ、いつも「マカセナサイイ！」と思わず口を滑べらせてしまった事後処理に、青ざめつつ喜んでいる。

それが、私の真実の姿なのです。

コ・ワ・イ・ヒ・ト

新人紹介

明日
花咲け



椎田町社協 鞘野 希昭

- 年齢 38歳
- 経験年数 4カ月
- 自己紹介

酒とバイクを愛する三児の父です。夜の灯りに誘われて、気がつけば二時三時ということも……『酒は楽しく飲む』ということをもットーに、また、

暇を見つけては、500ccのバイクに乗り林道を走っています。いい年をしてという家族の冷ややかな目など気にせず、景色を楽しみながらのツーリングは、気分爽快ですが、自分の年を振り返ると年相応の趣味を見つけ、家族と仲良く暮らしていきたいと思っっている今日此頃です。

○これからの抱負

私は今、事務局長を兼務しながら、毎日仕事に追いつくことに努力している現状です。これからは、地域の方々と「ふれあい」を深め、だから愛される社会福祉協議会でありたいと思っています。



中間市社協 高崎 博紀

- 通称…ロッキー
- 年齢不詳 (28歳+α) ※ 独身
- 経験年数 6ヶ月
- 特技・趣味

器用貧乏、下手の横好き、旅行、美食家(おなかに入れば何でもよい)、音楽(今B'zワンス)に凝っている。古典楽曲指揮者にも傾聴。

○セールスポイント

おつちよこちよいで、典型のお人良し。車大好き、動物大好き人間。一人で車に乗る時、話し相手はいつも猫、あくあ!! キャットウーマンが欲しい。

○仕事への抱負

四月に専門員を仰せつかるや否や、筑豊ブロックの事務局、県の役員、又、ボランティアの集い、北九州地区集会の大会会場等、あれやこれやの責任ある仕事ばかり、溜息の連続……
でも、ただ一言「やるっきゃない!!」ロッキーあつての社協にするんだ、

伊達に行政に12年間いたんじゃない!!という事を踏まえて誰からも愛される「ロッキー」じゃなかった「社協」を目指していきたいです。

○メッセージ

何たって、ガンバルニャン、ガンバルニャン!!
諸先輩方々、宜しく御指導御鞭撻お願い致します。



春日市社協 大山 訓治

- 年齢 30歳
- 経験年数 6カ月
- 特技・セールスポイント
- 家庭内福祉活動

家事援助活動(掃除(フロ掃除含む)、洗濯・料理)
○児童福祉活動 二児の保育園送迎・土日祭日の保育活動全て。
共働者等日常生活支援事

業として実施させられています。

○これからの抱負

今までの経験を生かせる部門として、ハリキッていますが、新しい仕事も、異動と一緒に多く、おおせつかり目のまわる毎日、仕事をしていますが、専門員一年生として、皆さんに追い付け、追い越せで頑張りたいと思いますので、春日市社協同様よろしくお願ひ致します。



大刀洗町社協 村山真知子

- ▽年齢 四十プラス?歳
- ▽経験年数 一年数ヶ月
- ▽自己紹介

筑豊で生まれ、北九州で育ち、結婚後、筑豊に住みついた県内渡り人?というところです。

三女の母で、ひとりの夫と、三人の親に囲まれ、まさに、家庭内で身近に老人問題を抱えた渦中の人もあります。

▽これからの抱負

一年と少し社協の風に吹かれてみて、なんとなくわかりかけてきたところですが、さらに先輩方のご指導を仰ぎ、地域に目を向け、足もとから「地域福祉」を築き上げていきたいと思えます。

専門員連絡会 新スタッフ登場

一時期、マスコミの話題をさらった、あの「矢ガモ騒動」のことは、まだ記憶に新しいことと思われる。傷ついたカモに日本中の人々が同情を寄せ、何とかしてやりたいと願った。

障害者運動で有名な大阪の枚口一二さんは、その時のことを「障害者が見られている」と語り、「人間は得手勝手なもので、こうしたパツと目につく現象には飛びつき、同情もするが、片方でそのカモを平気で食べている」。つまり、その相手が私たちの生活に入り込まない対象である限りでは、「かわいそう」と心を寄せ

るが、いったんわが身、わが暮らしに影響を及ぼすとになると、途端に身構え、反発すると言う。ちがう存在としての障害者が生まれる時の多くの親の反応がそうであるように、私たちは絶えず周囲の多数者の視線を気にしながら、違うことを恐れているように思われる。

今年七月、水俣病を訴える一人芝居を続けてこられた乙女塚の砂田明さんが亡くなられた。その最後の舞台となった三月の第一次訴訟二〇周年の集い「人権と環境フォーラム」での詩の朗唱のビデオを友人に借りて見せてもらった。

その日、砂田さんは既に

新会長メッセージ
いま、
ヒトとして
直方市社協 高石 伸人

「起ちなはれ」

もし 人が 今でも 万物の霊長やというのやったら こんな酷たらしい毒だらけの世の中 ひっくり返さなあきまへん さんが文明や 蝶や蜻蛉や螢や 蜆や田螺や雁や燕や、ドジョウやメダカやゲンゴロイや イモリや 数も知れん生きもの殺しておいて 首は座らん目は見えん 耳は聞こえん口きけん 味は分からん手で持てん足で歩けん

——そんな そんな苦しみを水俣の赤ちゃんにおしつけていて 大腸菌かて棲めん海にしてしてもて さんが高度成長や なんが百年一度の万博や

「起ちなはれ」

紙面の関係で全文を紹介することはできないが、魂を揺るような語りに、私の胸には熱い想いがこみあげてきた。私たちが失いかけている。いや、もしかしたらすつかり手放してしまつたかもしれぬ生命の願いへのたぎるような想いが、この詩には満ちている。それは砂田さんの祈りであると同時に、水俣病の患者さんたちの叫びであり、「生類」の涙であるのだろう。ひるがえって、福祉を本業とする私たちは、いまこの時代の只中であって、どれほど「ヒトとして生きる」ことに想いをめぐらしていることだろうか。差別をはね返すことや、共に生きる関係を創り出すことが人間の特権であつてよいはずはない。「ちがう」ことを心から「バンザイ」と言える暮らしを私は実感しえてい

たろうか。矢ガモや障害者を見られる対象の位置にクギ付けにした活動から一歩も出ていないのではないか。

「共に生きる」ことがゴールではなくプロセスであるとするなら、何よりもまず自らを多数者への帰属意識から解き放つことが求められているように思う。

新役員・委員紹介

〔役員会〕

□会長

直方市社協 高石 伸人

□副会長

吉井町社協 田村 吉彦

飯塚市社協 手塚 弘幸

□監事

古賀町社協 渡 政喜

八女市社協 中野 孝人

□幹事

須恵町社協 岐部 健一

中間市社協 高崎 博紀

桂川町社協 永利 夏子

岡垣町社協 井上しげ子

田川市社協 西村 勝也

黒木町社協 久保 秀史

〔調査研究委員会〕

甘木市社協 前田 正剛

穂波町社協 井上 英晴

那珂川町社協 坂井由紀子

筑後市社協 中山 陽一

新吉富村社協 沼野 淑子

〔任期〕

一九九三年四月一日〜

一九九五年三月三十一日

まなこ 編集物語 〔新・配役〕

□委員長

田川市社協 西村 勝也

□副委員長

黒木町社協 久保 秀史

□委員

玄海町社協 牧 雅仁

二丈町社協 肥田 剛

朝倉町社協 江藤 善行

小郡市社協 中島 輝光

大木町社協 黒田 紀子

築城町社協 佐々木真司



十一月十一日、二回目の「まなこ」編集会議が行われた。一枚一枚の依頼原稿の読み合わせ、リライト、レイアウト、と編集委員一人一人が真剣に広報紙の出来を考える。昼食をすませ、

三時・四時と時間がいささか気になりだした。五時十分前、やっと終了、おつかれ様!!大変な?広報づくりではあるが八名の男性に囲まれ私にとっては楽しい広報づくりでもある。五時三十分、電車で飛び乗り隣の若奥様(新婚?)の居眠りを支えながら、今晚のおかずは...と母親にもどった一日である。

―― 大木町社協 黒田 紀子 ―
日頃のデスク・ワークを外れ、久々の都会の風を感じに、帰りには寄り道して帰ろうかと考えたのがあまかった。

田舎から、早朝より車をとばし、編集委員会が終わったのは、5時ちよつと前。あゝあ、家に帰りつくまで今から又2時間、今日はもう帰ろう...
―― 黒木町社協 久保 秀史 ―

委員長・副委員長になった方は、みんなで補佐しますから...と、言ったのが

運のつき。「これでもか」と、言うほど仕事を引き受けるはめに...。

何事も経験、「ありがたいこと」と、なかば開き直っております。十月に第一回の会議、残り六ヶ月間で、二回発行できるように委員のみなさんと頑張りたい。では、また誌面にて!

―― 築城町社協 佐々木真司 ―
第一回編集委員会では、「むやみに口を開くのは、危ない!」と、自分に言い聞かせた午前中でありました。

第二回編集委員会は、三十五号の誌面構成など行いました。それにしても、第一回では貝のように口を閉ざしていたみなさんが、第二回では委員長そつちのけで意見の投げ合い!!しかし、決めるところは決める委員長。鶴のひと声ですべて決着!このような編集委員会に、ご期待下さい。

―― 玄海町社協 牧 雅仁 ―

編集後記

編集委員長
田川市社協
西村 勝也

今回、新しい編集委員で作った「まなこ」です。歴代の編集委員が築いてこられた、伝統と実績を重んじ、精一杯紙面づくりに頑張ります。新スタッフもファイトあふれる方々で、持ち前のアイデアを充分に発揮して、紙面づくりに関わっていただき、大変いいものが出来てきました。また今回、原稿をお寄せいただいた方々に感謝いたしますと同時に、今後また原稿の寄稿も宜しく願います。最後になりますが、新スタッフ一同全力で頑張りますので宜しく願います。